

# 神宮前五丁目地区まちづくり方針 概要版

## まちづくり方針策定の背景・経緯

都は、渋谷駅から表参道につながる青山通りの沿道に位置する旧こどもの城について、誰もが利用できる複合拠点「都民の城（仮称）」として活用するため、「都民の城（仮称）改修基本計画」（令和2（2020）年2月）を策定した。「都民の城（仮称）改修基本計画」では、「遊び・学び・仕事を通じて、子供をはじめとした都民が交流し、成長できる場」をコンセプトとして、旧こどもの城を当面の間利用するとともに、長期的には、周辺所有地との一体利用により、「都心部に残された東京の成長を支える重要な用地」として活用案を描くこととしていた。

その後、コロナ禍を経て都民の生活意識、行動及び求められる行政ニーズも変化し、加えて経済面等の効率性や所有財産の有効活用の観点から、令和4（2022）年5月に本計画の実施は見送り、都民の城（仮称）が目指す理念を生かしつつ、ポストコロナのまちづくりのモデルケースとするため、「神宮前五丁目地区まちづくり検討会」を設置し、所有地の一体活用に向けた具体的なまちづくりの検討を行い、将来像を示す。

## まちづくり方針の位置付け

「神宮前五丁目地区まちづくり方針」（以下「本方針」という。）は、旧こどもの城の敷地及び周辺所有地の歴史、変遷並びに「神宮前五丁目地区まちづくり検討会」等での意見を参考に、都として、神宮前五丁目地区のまちづくりの将来像や進め方を示すものである。

今後、本方針に基づき、すべての「人」が輝き、一人ひとりが幸せを実感できるような「成長」と「成熟」が両立した「世界で一番の都市・東京」の実現にも寄与しながら、当地区のまちづくりを推進していく。

### ■まちづくり方針の対象区域と地域特性



※この地図は、国土地理院長の承認（平29国関公第444号）を得て作成した東京都地形図（S=1：2,500）を使用（4都市基交第68号）して作成したものである。無断複製を禁ずる

#### <渋谷駅周辺エリア、神宮前エリアの地域特性>

文化・交流、教育施設等が集積し、渋谷と表参道などとの結節点として、多様な人が行き交うまち

#### <当地区の現状・特性・歴史>

子供、文化、女性活躍、スタートアップ、国際交流など様々な機能が個々に効果を発揮してきた。

## 将来像

文化・交流・教育施設等が集積する地域特性や、子供・国際交流・女性・スタートアップなど、様々な支援等に係る機能が個々に効果を発揮してきた地区の現状、また、コロナ禍を経たまちづくりの捉え方の視点等を踏まえ、当地区では、「人への投資」を一層加速させ、「人」の力を高め、引き出し、一人ひとりが主役になる社会の創出につながるまちづくりを進めていく。

旧こどもの城が担ってきた「子供の健全な育成」という役割を踏まえ、子供・若者が希望を持って自ら伸び、育ち、未来を創造できる場へと発展させていく。

また、青山劇場・円形劇場の芸術文化の創造、発信地であった歴史等を踏まえ、多様な人々の感性を育み新たな価値の発見をもたらす環境づくりを進め、芸術文化で躍動する都市東京の実現に寄与していく。

当地区では、こうした基本的な考え方を踏まえ、以下のとおり将来像を設定し、将来像の実現を通して、誰もが将来の夢や希望を叶え、一人ひとりがもっと輝く東京の実現に寄与していく。

### 将来像

## 誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」

- ・機能間の連携により、子供をはじめとした多様な人々の交流や創造活動が、新たな文化・アイデアの創造、個々人の成長につながる場
- ・多様な過ごし方を選択でき、心の豊かさを実感できる、憩いと交流の場

### <「智」の趣旨>

「知」で意味する“知識の習得・情報の収集”にとどまらず、それをどのように使うのか、活用するのかという意味を含む「さといの『智』」とすることにより、多様な人々が創造・交流活動等を通じて、深い理解や洞察を得る能力、知識を実際の状況で応用する能力を高められるという趣旨で、「『智』の創造拠点」とする。

「智の創造拠点」では、受動的だけではなく、能動的な活動を誘発する環境を整備することで、一人一人が心の豊かさを実感でき、自己実現が図れる場を目指していく。

## 将来像実現に向けた導入機能

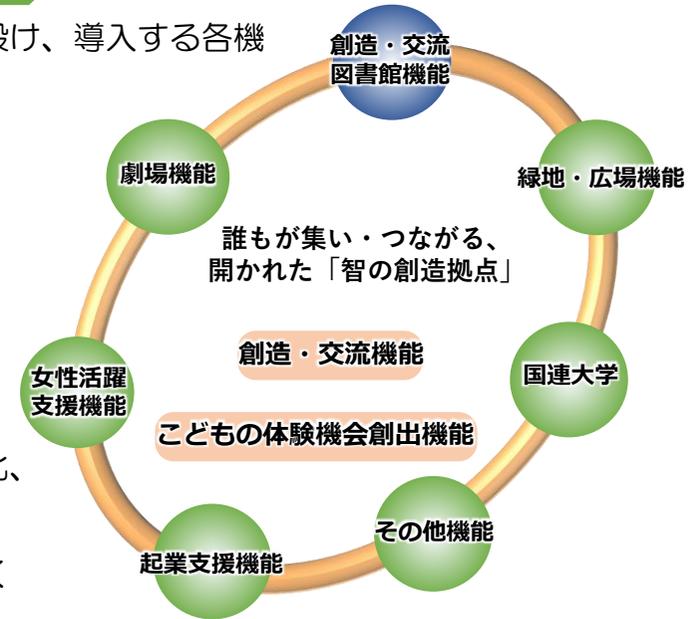
将来像を実現していくに当たり、「当地区全体で役割を果たす機能」及び「軸となる機能」を設け、導入する各機能を相互に連携させ、相乗効果を発揮させていく。

「当地区全体で役割を果たす機能」としては、文化・交流・教育施設等が集積し、多様な人が行き交う当地区の特性や、旧こどもの城が次代を担う子供たちが心身ともに健やかに成長していくために重要な役割を担ってきたことを踏まえ、“創造・交流機能”や“こどもの体験機会創出機能”とする。

「軸となる機能」としては、人々の交流拠点やコミュニティの核となり、創作活動の場やインスピレーションを得る場として新たな価値や機能を提供する“創造・交流図書館機能”とする。

「各機能」としては、様々な人の成長を支えるために、これまで個々に効果を発揮してきた文化、女性活躍、スタートアップ、国際交流などの機能とする。

なお、持続的な発展を図っていくため、導入機能は時代のニーズ等に応じて柔軟に変化していくことも想定している。



### 当地区全体で役割を果たす機能

#### ①創造・交流機能

訪れる人の知識、創造性及び好奇心を育むとともに、人々の活動・交流の受け皿となり、人々の個性や可能性を開く。

#### ②こどもの体験機会創出機能

乳幼児から中高生まで、子供の興味・関心に応じて多様な体験ができる場を創出することで、子供の将来の可能性を広げるとともに、子供を育てる親にも親同士の交流機会や憩いの空間を提供

### 軸となる機能：

#### 創造・交流図書館機能

今までの枠組みを超えた創造・交流図書館を軸として、その他の導入機能と連携し相乗効果を発揮しながら、まちの将来像を実現していく。

### 各機能：

**劇場機能：**多様な人々の感性を育み、「創造・交流図書館機能」等との相乗効果で新たな価値の発見を誘発

**女性活躍支援機能：**女性のキャリアアップや活躍の基盤づくりを後押しし、その知見による価値創出・発信

**起業支援機能：**スタートアップ支援、アントレプレナーシップ教育等、人々の好奇心喚起・創造意欲を創出

**国連大学：**国連大学と協力・連携することで、誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」を共創

**緑地・広場機能：**居心地の良い空間で各機能や人と人とがつながることで創造・交流活動を誘発

**その他機能：**その他、将来像実現のために必要な機能

## まちづくりを行う上での配慮事項

### ■主な建築計画

- ・ 創造・交流活動が誘発されるよう、空間的・機能的に柔軟な対応ができる余白にも考慮した計画とする。
- ・ 時代の変化や多様化するニーズにも対応できるよう、冗長性・可変性も考慮した計画とする。

### ■主な景観形成

- ・ 青山通り等から人を呼び込む誘引力や、渋谷から表参道等への回遊性にも配慮した魅力的な空間を、高低差等も踏まえ形成する。
- ・ 青山通りや周辺道路から広場空間への視線の抜けに配慮する。 など

### ■主な環境配慮

- ・ 環境に関する新たな技術開発の動向も見据え、先進的な技術を活用しながら、省エネルギー対策や再生可能エネルギー利用等によるカーボンマイナスの推進と質の高い緑化の増進等を行うことでゼロエミッション東京の実現に寄与する。
- ・ 環境問題や環境負荷低減のための取組に触れられるなど、子供や学生の環境意識の醸成に資する取組を実施する。 など

## 「智の創造拠点」として持続的な価値の維持向上を図るための取組(官民連携)

- ・ 整備・運営内容について民間事業者から提案を受けることを想定
- ・ 各機能が相互に連携して「智の創造拠点」としての価値の維持向上を図るため、官民連携でマネジメントを行う仕組みを構築
- ・ 具体的には、計画段階から企画・運営内容等の議論も行いながら施設整備を行い、整備後も、時代の変化や多様化するニーズ等に応じた機動的なプログラム提供や運営につなげていく。
- ・ このほか、ワークショップなどの機会を設け、地域の方や施設利用者、子供・若者などと意見やアイデアを交換し、新しい発想を生み出していく。

事業者決定から竣工まで

竣工後（運営）

計画段階から事業の内容（事業企画、施設計画等）について協議調整し、具体的な計画を策定。状況に応じて、更新を図る。

運営やプログラム等について協議・調整し、時代のニーズ等に応じた持続的な発展を図る。